

教職実践演習（高）

[演習] 第4学年 後期 選択 教職必修 2単位

《履修上の留意事項》この授業科目は、履修年度に「教員免許状の取得が見込まれる者のみ」が履修できます（原則）。

《担当者名》 白石 淳 [jun-jun@hoku-iryo-u.ac.jp] 福間 麻紀 高橋 由紀 村田 政孝（非） 千原 治（兼任）

【概要】

この授業は、教職課程における学修をとおして、教員として最低限必要な事項が身に付いているかどうかを確認し、不足している知識・技能などを補うために設けられている。授業では、とくに教員として求められている次の4つの事項について学ぶ。「使命感や責任感、教育的愛情」「社会性や対人関係能力」「生徒理解や学級経営」「教科の指導力」である。取得予定の免許状に関する学校・生徒の活動にも参加しながら、また現場経験豊かな教員等に授業に参加して頂きながら実践的に学ぶ。教職課程の4年間の学修を振り返り、一つひとつ確認しながら学修を行う。

【学修目標】

授業終了後には次のようなことができるようになっているはず。または、そうなるように自らも努力してください。

教員として必要な知識・技能を、自分の言葉で説明できる

教員としての使命感、責任感等を自覚できる

自己の教職課程における学修内容、理解度等を把握でき、不足している事項を補うことができる

教員として最低限必要な資質能力を修得したかどうか、自己評価できる

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	授業の位置づけ、教育課程の学修の振り返り・確認と課題の発見	授業の位置づけ、意義を学ぶ。教員にとって必要な資質能力について理解し、「教職履修カルテ」を用いて4年間の教職課程の履修履歴を確認し、自己の学修を振り返り、これからの学びにおける自己の学修課題を発見し、「振り返りシート」に記入する。	白石
2	高校現場の課題と必要とされる教員の資質能力	教員に求められている資質能力について理解を深め、教員の理想像を描く。	白石
3	教員の使命、責任や職務内容の確認	現職高校教員との意見交換をとおして、教員使命・責任・職務内容等について理解を深め自覚する。	白石 谷地田 穰（特別講師）
4	模擬授業の実施（1）	授業・HR活動等を、模擬授業として行う。学習指導案の配布、模擬授業の実施、授業で工夫した点などの説明を行う。本時は、模擬授業を進めるにあたっての授業計画等の準備を行う。	村田
5	模擬授業の実施（2）	授業・HR活動等を、模擬授業として行う。学習指導案の配布、模擬授業の実施、授業で工夫した点など説明を行う。またHR担任の仕事など学級経営についても報告し、理解を深める。報告し、理解を深める（報告者AさんBさん）。報告者以外の学生は、授業を評価し、その後討論を行う。元高校長（道教委）の教員から評価を受け、授業の方法等について確認をする。	村田
6	模擬授業の実施（3）	授業・HR活動等を、模擬授業として行う。学習指導案の配布、模擬授業の実施、授業で工夫した点などの説明を行う（報告者CさんDさん）。報告者以外の学生は、授業を評価し、その後討論を行う。元高校長（道教委）の教員から評価を受け、授業の方法等について確認をする。	村田
7	模擬授業の実施（4）	授業・HR活動等を、模擬授業として行う。学習指導案の配布、模擬授業の実施、授業で工夫した点などの説明を行う（報告者EさんFさん。報告者以外の学生は、授業を評価し、その後討論を行う。元高校長（道教委）の教員から評価を受け、授業の方法等について確認をする。	村田
8	模擬授業の実施（5）	授業・HR活動等を、模擬授業として行う。学習指導案の配布、模擬授業の実施、授業で工夫した点などの説明を行う（報告者GさんHさん。報告者以外の学生	村田

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		は、授業を評価し、その後討論を行う。元高校長（道教委）の教員から評価を受け、授業の方法等について確認をする。	
9	中学校における教育活動への参加（1）	中学生のキャリア教育に参加する準備をする（計画を立てる他）。	高橋
10	中学校における教育活動への参加（2）	中学生のキャリア教育に参加する準備をする（パワーポイントの作成他）。	高橋
11	中学校における教育活動への参加（3）	中学生のキャリア教育に参加する準備をする（最終確認・リハーサル他）。	高橋
12	中学校における教育活動への参加（4）	中学生のキャリア教育に参加しながら、中学生の心理、キャリア教育の意義等について学修する。	高橋
13	中学校における教育活動への参加（5）	中学生のキャリア教育に参加しながら、福祉、教職の意義を再確認する。	高橋
14	高校における教育活動への参加準備（1）	高校における教育活動の参加に向けて準備を行う。「かたり場」のDVDを見ながら、高校生の姿及び本教育活動の参加の意義について考える。	白石
15	高校における教育活動への参加準備（2）	高校における教育活動の参加に向けて準備を行う。参加するための内容、方法（ワークショップのテーマ、進め方他）等について話し合いを行う。	白石
16	高校における教育活動への参加準備（3）	高校における教育活動の参加に向けて準備を行う。前回の授業の際に決めたテーマでワークショップを行う。	白石
17	高校における教育活動への参加準備（4）	高校における教育活動の参加に向けて準備を行う。学生の役割決めなど、具体的な準備、確認をする。	白石
18	学校における課題（学校、HR活動、生徒、教員、教育実習・採用等についての課題他）の把握・分析	学校教育（学級、生徒、教員、教育実習、採用等）に関する課題を、教育実習やこの授業等における学びをとおしてグループワークにより発見、分析、対応などを考える。	福間
19	学校における課題（学校、HR活動、生徒、教員、教育実習・採用等についての課題他）の深化	前時で行ったグループワークの結果を発表し、意見交換を行い課題・解決方法などを深める。上記の課題・解決すべき方法（対応）などの自己理解を深め、発表の準備を行う。	福間
20	学校における課題（学校、HR活動、生徒、教員、教育実習・採用等についての課題他、その解決方法の発表（1）	前時で準備した内容などを下級学年の教職課程履修学生に対して各グループで発表を行う（発表者AさんBさんCさんDさん）。	福間
21	学校における課題（学校、HR活動、生徒、教員、教育実習・採用等についての課題他）、その解決方法の発表（2）	前々時で準備した内容などを下級学年の教職課程履修学生に対して各グループで発表を行う（発表者EさんFさんGさんHさん）。	福間
22	学校における課題（学校、HR活動、生徒、教員、教育実習・採用等についての課題他）、その解決方法の発表（3）	前々々時で準備した内容などについて、質疑応答など討論し、その課題内容について深める。	福間
23	P T Aの役員（保護者）からみた教職の意義、教師の役割・職務内容	特別支援学校の保護者（元P T A役員）との意見交換を行いながら、教職の意義、使命、職責などについて理解を深め、自覚をする。	白石 林家とんでん平（特別講師）
24	高校における教育活動への参加（1）	高校における教育活動（特別活動他）に参加し、高校生と活動する。本時は、高校生とともに自己紹介、ワークショップ（グループワーク）を行う。生徒と授業に参加することをとおして、生徒・教員と交流、高校教育・教員の職責・教科等の指導力などの理解を深め	白石

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		る。	
25	高校における教育活動への参加(2)	高校における教育活動(特別活動他)に参加し、高校生と活動する。本時は、高校生とともにグループワークの結果の発表、意見交換を行う。生徒と授業に参加することをとおして、生徒・教員と交流、社会性、対人関係能力を高めるとともに高校教育・教員の職責・教科等の指導力などの理解を深める。	白石
26	免許状を受けるにあたっての確認(1)	これまでの教職課程の授業及びこの授業を振り返り、免許状を受ける者としての心構え(知識・技能等を含む)などについて再確認する。社会人・教員としての資質能力、教員の欠格事項などについて確認する。	白石
27	免許状を受けるにあたっての確認(2)	教育現場、実践を踏まえ、免許状を受ける者としての心構え(知識・技能等を含む)などについて再確認をし、深く自覚する。	千原
28	教職課程の学修の確認(1)	これまでの教職課程における学修を全員で確認をする。	白石
29	教職課程の学修の確認(2)	高校長経験の教員から、教職課程の履修を振り返り、これまでの学修を確認し、免許状を受ける者としての意識を深化する。「履修カルテ」を用いながら、進める。必要に応じて個別に補完的な指導を行う。	千原
30	教職課程の学修の確認(3)	履修カルテを確認し、これまでの学修を確認する。必要に応じて個別に補完的な指導を行う。	白石

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部(研究科)、学校の授業実施方針による

【評価方法】

授業、個別指導、レポートの結果などを踏まえ、教員として最小限必要な資質能力が身に付いているかについて確認し評価する。
 グループワーク、模擬授業、授業等の参加状況、個別指導の状況(含む学生の自己評価) (70%)
 討論の結果など授業中に作成したレポート課題等(学修段階に応じたレポート複数回を含む)(30%)

【教科書】

「公民科(現代社会等)教科用図書」(教育実習で用いたもの)
 高校及び特別支援学校の教育実習における研究授業で作成した学習指導案・教育用図書
 必要に応じて、プリントを配布する。

【参考書】

『高等学校学習指導要領』(文部科学省 東山書房)
 教職課程の授業で用いた教科書及び資料

【備考】

「高校における教育活動の参加」「特別支援における教育活動の参加」は、特別支援学校、高校において行う。
 授業の日程は、実施する学校の都合、学生の教育実習期間により変更となる場合がある。実施日程等については、本授業中に連絡する。
 教職履修カルテを配布し用いる。授業時間の他に必要に応じて個別に補完的な指導を行うことがある。

【学修の準備】

予習：毎回、授業時に提示する内容に取り組むこと(80分間)。
 復習：毎回、授業時に提示する課題に取り組むこと(80分間)。
 「教員の資質能力、責務の内容」「高校・特別支援学校への授業参加の準備」「講義授業の指導案の作成などの準備」「学校の課題に関する整理、発表の準備」他、事前に具体的に提示する。

【免許法施行規則に定める科目区分等】

「教職に関する科目」免許法施行規則に定める科目分等の「教職実践演習」に該当する。2019年度入学生からは「教育実践に関する科目」の「教育実践演習」に該当する。

【実務経験】

白石淳（高等学校教諭）、福間麻紀（高等学校教諭免許状、社会福祉士、スクールソーシャルワーカー）、高橋由紀（介護福祉士）、村田政孝（高等学校教諭、道教委教育指導監）

【実務経験を活かした教育内容】

高等学校、福祉の専門職としての実務経験を活かし、教育現場に有益となる実践的教育を行う。